特定非営利活動法人 太平洋戦史館

戦史館だより

２０１６年10月10日発行
戦史館事務局〒029-4427
岩手県奥州市衣川区陣場
下４１ ㈱オフィス花岡
編集発行人 花岡千賀子

会長理事 岩渕 宣輝 専務理事 大瀧 久治 ☎0197-52-3000 FAX 0197-52-4575

第15回通常総会 9月17日（土）無事開催

今年は特に台風による被害が各地で頻発しましたが、会員の皆さん、いかがお過ごしですか？ 戦史館は、何とか今年も無事に通常総会を開くことができました。１年前の総会の日は、未明に戦争法案が参院で強行採決されたまさにその日でしたが、あれから１年。戦史館は会員アンケートによる応援を支えに、一人ひとりにできる“避戦”の活動を中断しないよう、一歩一歩 ひたすら粘り粘った１年でした。

昨年９月末の遺骨帰還０柱事件に続き、11月には今年２月に予定されていたプアイ村からの遺骨帰還の準備に、未送還情報収集チームが渡航しました。しかしインドネシアとの遺骨帰還に係る覚書協定が（２年毎に見直し両国の合意で延長されることになっているのですが）この月で失効してしまったことで、プアイ方面の収容と帰還は延期に…！！

パプア州の代わりに…と西パプア州マノクワリからビントニ方面へ、厚労省、大使館と共に調査に向かう計画も、土壇場でインドネシア教育文化省にＮＯと言われ、それならば岩渕宣輝個人の私的巡礼として一人、遺骨帰還とは無関係にジャヤプラ方面へ出かけたのが４月。２月に迷惑をかけた現地の人々に謝罪と説明をしてきました。

７月には厚労省に同行しジャカルタへ。しかし民間人だから…とインドネシア側との交渉には同席できませんでした。８月末、遺骨の収容と帰還に関する両国の覚書はようやく合意にこぎ着けたようですが、署名がいつになるのやら、見通しはいまだ不明です。

一方、国内では遺骨収集推進法が成立し、この法に明記されたとおり、遺骨の収容から帰還までを行う唯一の“指定法人”が設立されました。遺骨帰還の活動は、この『一般社団法人日本戦没者遺骨収集推進協会』の“社員”として継続していくとになっていますが運営組織を作ることに半年以上費やし、今もまだその途上、これから事務所を借りたり職員を採用する手続きが続くようです。こうしている間に戦史館の維持運営はますます困難な状況に陥るのは避けられないことですが、最後まで避戦の活動を続けましょう。

特定非営利活動に係る事業会計収支報告書　16期収支予算（一般会計）

2015年度特定非営利活動法人太平洋戦史館　2015年８月１日から2016年７月31日まで　　2016年８月１日～2017年７月31日まで

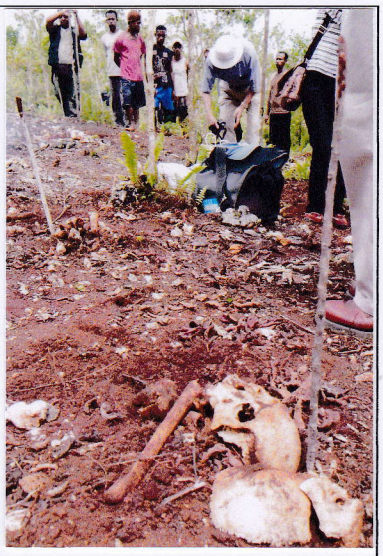
	科目・摘要		金額（単位：円）			金額		
Ⅰ	1. 会費収入	（ ）内は前年度実績）		599,400			510,000	
	正　会員[3,000×177]	（ 202名）	531,000			450,000		
収	会報会員[1,200× 57]	（ 61名）	68,400			60,000		
入	賛助会員[30,000 ×0]	（ 0 ）	0			0		
の	2. 寄附金収入	（1,648,570）	1,296,370	1,296,370		1,800,000	1,800,000	
部	3. 事業収入（講演、戦史視察、講）	（ 53,580）	26,880	26,880		61,390	61,390	
	4. 専従役員から借入れ	（ 100,000）	600,000	600,000		0	0	
	当期収入合計				2,522,650			2,371,390
	1. 事業費			1,714,492			1,420,000	
Ⅱ	専従者給与	（ 960,000）	960,000			600,000		
	旅費交通費	（ 130,890）	199,618			200,000		
支	送料通信費	（ 269,889）	270,921			240,000		
	出版発行費	（ 153,252）	124,740			140,000		
出	調査研究費	（ 65,331）	61,595			60,000		
	展示館光熱費	（ 59,976）	61,318			70,000		
の	事務消耗品費	（ 64,582）	36,300			50,000		
	現地協力費	（ 0）	0			60,000		
部	2. 管理費			827,357			860,000	
	会費・会議費	（ 10,200）	7,655			60,000		
	施設使用料	（ 600,000）	600,000			600,000		
	管理諸費	（ 171,698）	197,632			180,000		
	雑費（戦史研究誌）	（ 22,040）	19,210			20,000		
	租税公課	（ 0）	2,860			予備費20,000	20,000	
	3. 借入金返済	（ 0）	0	0		返済 100,000	100,000	
	当期支出合計				2,541,849			2,400,000
	当期収支差額				▲19,199		▲28,610	
	前期繰越収支差額				47,809		28,610	
	次期繰越収支差額				28,610			0

正会員１７７名、委任状の出席１２４名、実出席１９名
予定された議案は　すべて承認されました。

昨年度の一般会計収入は 1,922,650円と激減しましたが、支出が 2,541,849円と例年通りであったことから不足分を専従役員から60万円借入れました。これまでの借入残合計額は80万円となります。特別会計のＨ27年度未送還情報収集事業は、支出済額18,469,922円で３月末に報告書一式を厚労省に提出して終了しましたが、ようやく８月になって報告書のとおりの内容と金額で精算が確定したという通知が届き、 4,141,678円を国庫に返納しました。４百万円以上の返金となった理由は、年度途中で海外情報収集派遣が中断されたことによるものです。第16期予算は、新たに新法人へ“社員”として参加したため年会費５万円が発生すること、支出全体を年間２４０万円で抑えるため専従役員報酬月額を８万円から５万円に減額することなどが特徴です。戦史館の窮状を心配して、会員の皆様から今期は早めに会員継続の手続きとご寄付によるご支援をいただいています。多謝。

今年度は２年に１度の役員改選の年。総会で理事・監事、全員が再選されました。理事７名、岩渕宣輝（会長理事）、大瀧久治（専務理事）、有馬咲子、小原守夫、瀬野尾一江畠山真一郎、花岡千賀子（事務局長）、監事１名木村宏　以上８名、任期は２年間です。

横山さんの写真展 地元で復活



この写真展は、2007年７月にビアク島マンドゥ地区で数十体の白骨遺骸を発見した横山邦彦さんらパプア巡礼団員が「兵士たちの無念を思うとこのまま放置できない。この現場を見た者は事実を皆に知らせる責任がある。できる範囲で取組もう」とスタートしました。「地獄に底があるとすればここが底か…遺骸の散乱ぶりは鬼気迫るものでした。鉄兜を被り中にはうつ伏せのまま…」遺骸の場所に目印の棒を立て、雑木と見分けるようテープを巻く黒いテープの柱の林立、凄まじい光景に心が震えたといいます。

一ヵ月後に大阪で写真展、そして京都、福井県鯖江市へ巡回。

翌年８月には戦史館の戦跡調査と遺骨帰還の歩みを伝える写真とその傍らで発見された遺留品の展示へ発展し、2009年３月高松市ではビアクとベラップの遺骨帰還の写真も加わり、５月山形県酒田市ではビアクの遺骸写真の傍らに展示された遺留品の飯ごうの蓋の持ち主が見つかり、各地へ広がりました。

今回は横山さんの地元で久々の復活です。（写真は実行委員の皆さん。左から阪本良子さん横山邦彦さん瀬野尾一江さん木村章子さん　撮影は古川雅基さん）

～『終戦その後の写真展　ニューギニアから』阪本良子さんの報告より抜粋～

西宮市の朝日新聞阪神支局のギャラリーを会場に、９月15日から18日までの４日間写真展を開催しました。地元の西宮で、是非写真展を開催したい…と横山さんの願いを叶えようと、瀬野尾さん、木村さんと話し合いを重ね、2014年10月のプアイ村からの遺骨帰還に私が参加したときの写真、遺骨の収容（掘り起こしや洗骨など）、火葬、追悼式の写真も加えました。来場者は４日間で 143名でしたが、皆さんとても関心を持たれていました。中には遺品の軍隊手帳、関連する地図、慰霊巡拝に行かれたときの写真などを持参した方もいて、それぞれの思いを話していただき、会場はその話題で交流が深まっていました。「西部ニューギニアから生還した父（93歳）にこの写真展の様子を伝えたい」と福井県から駆けつけてくださった男性。お母様の写真を胸に抱いて「ここがお父さんの亡くなった場所ですよ」と語りかけながら会場を回っていた女性。会場で初めてお会いした方々なのにお互いに親しみを感じてしまいました。

私たち遺児も70歳を過ぎているので、体力的には現地を訪れることに限界を感じています。戦争を知らない若い人たちに、この現状をせめて写真で見ることで理解していただき、戦争の悲惨さを知っていただけたらと思っています。